

【優秀賞】

「水の未来を、守りたい」

仙台市立郡山中学校

三年 八重嶋 やえしま みく

私は、ある二つの出来事をきっかけに世界の水の問題、身近な水の問題について考えるようになった。

一つ目の出来事は、小学五年生で家族と海外旅行に行った時のことだ。海外のホテルに泊まった時、のどが渇き私は水道水を飲もうとした。すると母が「この水道水は飲めないよ。」と言った。母の一言から水道水が飲める国と飲めない国があることを知った。母の話から、日本は世界中でも数少ない安全な水道水を飲める国だと知った。世界の水道水について気になる、詳しく調べてみた。すると、世界にはもつと深刻な状況の国があることを知った。

今の世界に、安全な水を手に入れない人は六億六千万人もいる。多くの発展途上国で子どもが池や川、整備されていない井戸から水を汲んでいる。子ども達は、水を飲むために重い水を抱えて毎日遠い道のりを歩き続けている。そのせいで学校に行く時間や体力は残されていない。日本の生活は、当たり前ではないことを改めて感じた。

二つ目は、私の母校八本松小学校の近くにある広瀬川での出来事だ。小学四年生の時、校外学習で、ニッカウイスキー製造工場を見学に行った。工場は、広瀬川と新川という二つの清流には生まれた自然豊かな場所にあった。広瀬川の上流は、水質がとてもきれいなため川の水をそのまま飲めると工場の方や先生が言っていた。川で遊ぶ時間があったので川の水をすくって飲んでみた。すごく透き通っていた。川の水だとは思えないほど、美味しくて驚いた。小学校では、毎年広瀬川で生物の観察を行っている。しかし、学校の近くを流れている広瀬川は中流、下流だったため上流

に比べて水質がきれいではないという。さらに見られる生き物も年々減少しているというのだ。私は、疑問に思った。「上流はきれいなのに、私たちのもとまで流れてくる間にどのような原因があるのか。なぜ川の生き物たちは減少してしまっているのか。」調べてみると、たくさん原因がある中で主な原因は私達「人間」の生活排水だった。生活排水とは、台所やトイレ、風呂、洗濯など日常生活で使った水のことだ。これらの生活排水には、汚濁物質が含まれている。この汚濁物質が川に流入した場合、分解しきれず川に残り汚染されるそう。特に洗剤には、りんなどの栄養塩類が含まれている。それが大量になればプランクトンが異常発生し赤潮や苦潮を発生させる。するとアサリ等の魚介類や貴重な生物に致命的な影響を及ぼすことがある。これが生き物の減少の理由の一つだ。

私は、この二つの出来事から日本での暮らしは当たり前ではないことに気付いた。川の様子から少しずつ環境が変化していることが分かる。このまま環境が悪化していくと、私達人間にまで影響が出るだろう。だからこそ自分達が直接的に関わることが少ない自然や行ったことのない国でも他人事のようにとらえてはいけないと思う。世界の現状を受けとめて自分ができることをすべきだと思う。水は無限にあるものではない。限りのあるものだから皆で大切に使わなければいけないと思う。少しの心がけで未来が変わる。顔を洗っているときに水を出しっぱなしにせず、こまめに止めるだけでも未来は変わってくるかもしれない。たったの一秒でも皆で意識をすれば大きなものになる。私は未来の水を守るために一秒一秒を、大切にしていきたい。